

研修医・専修医優秀演題賞	田島萌夢	3
看護師特定行為研修修了式		4
地域医療講演会	濱口卓也	5
新人看護師振り返りの会	武田直子	7
近森リハ病院 NASVA・短期入院協力病院に		7
近森病院附属看護学校卒業式		9
TAVI 専門施設認定	入江博之	10

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231
 発行●2019年3月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

新人を迎えて

皆さんと共に歩んでいきたい

社会医療法人近森会

理事長 近森 正幸



はじめに

近年の診療報酬改定で、看護師の数さえ揃えれば診療報酬が得られるという「ストラクチャー評価」から、成果を出すことで評価される「アウトカム評価」に変わり、日本の医療は大きく変わろうとしています。さらには、「医師の働き方改革」をはじめとするスタッフの働き方が問われる時代になっています。

大きく変わる高知の地域医療

私たちが医療を行っている高知は、高齢県であり人口減少県でもあり、病院病床も全国平均の倍と多く、課題先進県であると共に全国の地域医療の10年、20年先の変化を現在見ることができる高齢者医療の先進県でもあります。

高知の地域医療は、アウトカム評価により重症の患者さんを数多く診て、早くよくして地域に帰って頂くという競争が始まっており、急性期ばかりでなく回復期や慢性期、施設、在宅まで大きく変わろうとしています。急性期は稼働率の低下から病棟閉鎖や一般急性期から地域包括ケアへの転換、慢性期では介護医療院という施設への転換や廃院が起っています。

時代の変化に対応する自己変革 —選択と集中、そして連携—

近森会グループはこのような変化を予見し、10年以上前から着々と自己変革を続けてきました。

ハード面では7カ年計画で近森病院、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院

を全面的に増改築し、2018年5月にはしごと・生活サポートセンターウェーブが新築移転しています。

ソフト面では、近森病院急性期病床を338床から452床に増床することで入院患者数は1.3倍に増加し、中四国での救急車搬入件数は倉敷中央病院に次いで2番目で、多くの救急、重症患者さんを受け入れ、救命救急医療では地域1番店になっています。

地域医療連携は20年以上前から取り組みをはじめ、2003年地域医療支援病院として認可され、最近では当院医師の病院訪問や、他の病院の連携担当医師や看護師が定期的に来院する取り組みも始めています。

次頁へ続く



ゴールデンウィーク期間中の診療体制について

近森病院 4/30、5/1、5/2は、通常どおり診察いたします

4月				5月					
27日 (土)	28日 (日)	29日 (月) 昭和の日	30日 (火) 国民の休日	1日 (水) 天皇即位日	2日 (木) 国民の休日	3日 (金) 憲法記念日	4日 (土) みどりの日	5日 (日) こどもの日	6日 (月) 振替休日
救急体制での診療			通常診療				救急体制での診療		

▶ 通常診療以外の時間帯は救急体制（救命救急センター）での診療となります。

▶ 救命救急センターは24時間対応いたしますが、軽症のケガ等で来院された場合、重症の救急患者さんへの対応のため、長時間お待ち、もしくは対応できない場合がありますのでご了承ください。

▶ 救急体制での診療は、当番医師が診察いたします。



近森リハビリテーション病院・近森オルソリハビリテーション病院においても近森病院同様に、4/30、5/1、5/2は通常どおり診察いたします

前頁から続く

重症病棟で手間のかかる重症の患者さんを診て、落ち着けば一般病棟へ移す病棟連携も、ベッドコントロール師長の活躍でスムーズに転棟が行われています。

何よりも当院の最大の特徴は全国でもトップクラスのチーム医療で、専門性の高い多職種が病棟に常駐し、医師、看護師の周辺業務を行うことで医師、看護師の業務をコア業務に絞り込んでおり、医療の質と労働生産性の向上に大きく貢献するとともに、医師の働き方改革においても画

期的な効果を上げております。

みんなが主役のやりがいのある職場

当院では病棟常駐型チーム医療で各診療科や部署が協力して、チームで医療を行っています。医師、看護師だけでなく、薬剤師やリハスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士などの多職種もそれぞれの視点で患者さんを診て判断し、介入することで専門性の高いスタッフに成長しています。

その為、それぞれの専門分野では、医療専門職一人一人が主役となり、患者さんに頼られ、みんなが生き生

きとやりがいをもって働いています。

おわりに

この数年で病院を取り巻く環境は大きく変わり、厳しい時代を迎えています。今までの医療界の発想にとられず自己変革し続ける病院が、必ず生き残れる病院であると信じています。

未だ世界が経験したことの無い超高齢社会の医療のあるべき姿に取り組み、新人の皆さんと共に歩んでいきたいと願っています。

ちかもり まさゆき

看護部 キラリと光る看護



あなたの「シンゾウ」を守りたい

慢性心不全看護認定看護師

近森病院 5階 B病棟看護師 主任 久家 由美

日本循環器学会の「循環器疾患診療実態調査」によると、心不全による入院患者数は2017年26万人を超え、年に1万人以上の割合で増加しています。そして、2020年には120万人に達し、「心不全パンデミック（世界的流行）」になるといわれています。

心不全とは、心臓が悪いために息切れやむくみなどの症状が起こり、それがだんだんと悪くなって生命を縮める病気のことをいいます。心臓は拡がることで血液を吸いこみ、縮

んで血液を送り出す「ポンプの役割」をしています。心臓本体である筋肉の異常、血液の動き、電気の異常など様々な原因によって、うまく機能できなくなることで心不全は起こります。

原因に対する治療が必要ですが、心不全にならないように、再発しないように、患者さん自身が病気を管



理すること、「薬を確実に飲むこと」が特に重要です。また、「塩分を控えること」で水を蓄えてむくむことを予防し、「心臓の機能に見合った活動を心がける」などの体調管理がなによりも大切になります。

私の役割は、患者さんが生活のなかで感じている身体の不調の原因を、「病気」と「生活」という視点から評価して、生活のどこに心不全の危険が潜んでいるかを、明らかにしていくことです。

さらに、患者さんが無理なく体調管理が継続でき、その生活を一日でも長く続けられようように多職種チームでお手伝いします。



心不全 防ぐでござる！

シン・シン 健康プロジェクト、推進中

にちじゅん

検査

日本循環器学会

くげ ゆみ

研修医・専修医優秀演題賞 当科で経験した腸管スピロヘータ症の7例の検討 原因不明の下痢の先には……

近森病院消化器内科 田島 萌夢

腸管スピロヘータ症という、最近認識され始めた腸管感染症の一種に関して発表させていただきました。

症状は下痢や腹痛、血便など多彩ですが、内視鏡所見では診断できず、

組織の一部を顕微鏡で見て初めて診断がつく疾患です。

消化器内科医として、ただ「検査をする」のではなく、患者さんの背景を考えながらこういう疾患もある



ことを念頭に置き、より丁寧な検査を心がける必要性を再認識した発表となりました。

たしま もゆ

公開県民講座のお知らせ

看護部からのお知らせ

ユニフォームが新しくなりました

接触冷感で、通気性にも優れている生地がポイント！また、ユニフォームの後ろには、いつでも手指消毒ができるように、携帯用ポシェットが収納できるポケットがあるところは近森のオリジナル。

2パターンあります



オープンホスピタル

5月1日(水)

13:30～16:00

(対象者)
看護学生および保護者、
有資格者(看護師)
要予約
看護部長室まで
kango@chikamori.com

看護部採用試験

7月27日(土)

7月28日(日)

お弁当拝見 70 母の手作りサンドウィッチ



診療支援部
医事課 猪野 友加



私のお弁当は週に3日、母の手作りサンドウィッチです。トマトサンドや卵サンド、ハムサンドなど毎回サンドする具材を変えて作ってくれるので「今日は何サンドかな？」と考えるのが朝の楽しみです。

入職したばかりの頃は同じ部署の方々とお昼の休憩に何を話しているのか悩むことがあると思いますが、母のサンドウィッチのおかげで「今日は何のサンドウィッチ？」と声をかけてもらえることが多く、サンド

ウィッチをきっかけに会話が始まる事が多々あります。母のサンドウィッチは職場の皆さんと親しくなるきっかけを作ってくれました。 いの ともか



医療機能評価 ER付加機能認定





看護師特定行為研修 3期生 8名全員修了しました

看護師特定行為研修責任者 川村 佳代

本年度の看護師特定行為研修は、10カ月の研修を経て3月15日に修了式が行われ、3期生全員に修了証が授与されました。

受講生は、働きながらeラーニング・集中講義に追われ、1カ月半の

実習に挑みました。実習では、問診と身体所見、検査データなどから患者さんの病態を学び、看護師としての視野を拓けました。受講生は、年齢や経験にレディネスの違いがありましたが、年齢差を感じさせない仲

の良さで、誰一人欠けることなく修了することができました。

最後になりましたが、研修にあたりご指導ご協力くださいましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

かわむら かよ

修了生代表挨拶

医療法人防治会 いずみの病院 秋山 光美



私は看護学校を卒業後、臨床経験を積んできましたが、医療・看護の進展に伴いもう一度基礎から勉強したいという気持ちが芽生えていました。その折、看護師特定行為研修を知り、受講を決意しました。

この研修では、医療安全、病態生理、

フィジカルアセスメント、病態概論、薬理学、臨床推論など演習を交え総合的に学びました。その後、区別学習を経て実習において実際の患者さんを通じてさまざまな病態のアセスメントを学びました。受講するに当たり仕事や家事育児、学業との両

立に大きな不安がありましたが、指導者や同期の仲間たちに支えられて乗り越えることができました。

今回の研修で学んだ知識と技術を、これからの臨床現場に活かしていきます。

あきやま ひろみ



4月の歳時記

ガーベラ

近森病院リハビリテーション部
理学療法士 西村 麻美

4月は様々な植物が花を咲かせる季節です。その中でも華やかなイメージのある“ガーベラ”。花言葉は「希望」「前進」、色別にも素敵な

花言葉があり、贈り物にもよく使われます。これから新しい環境へと進む我が家の二人の娘達が花を育てたがっているの、今の二人にピッタリの花言葉をもつガーベラを勧めてみようと思います。

にしむら あさみ





KKR(国家公務員共済組合連合会)
高松病院女性泌尿器科
医長 平間 裕美 先生

女性泌尿器科外来へ ようこそ

近森病院泌尿器科 部長 濱口 卓也



3月1日、KKR高松病院女性泌尿器科医長・平間裕美先生を講師としてお招きし、地域医療講演会を開催しました。タイトルは「女性泌尿器科外来へようこそ」。

女性にとって、おしっここの悩みは

他人に相談しづらく、泌尿器科受診をためらう傾向にあります。そんな女性泌尿器科疾患について各疾患の説明や、女性医師ならではの診療、お考えなどを講演いただきました。

また、平間先生ご自身も子育て奮闘中とのことで、女性医師からみた現場の実態や家庭との両立などについても言及され、非常に有意義な講演会となりました。

した。

女性医師が活躍できる医療現場をつくらなければならないが、やはり制約があるのも事実といった社会的な問題も考えさせられる機会にもなりました。

こういった女性医師が抱える社会的問題も考えつつ、高知県における女性泌尿器科の発展を強く願う次第です。

はまぐち たくや

献血キャンペーン

ありがとうございました。

2月27日に献血キャンペーンを開催し、53名の方にご協力いただきました。ありがとうございました。次回は5月に予定しています。



リレー エッセイ

ダンスをはじめて

近森病院救命救急病棟 看護師 川村 汐織

仕事にも慣れてきて2年目になる前、高校時代に部活を通して習っていたジャズダンスを社会人になって再び習いはじめました。

学生時代に経験があるといってもちゃんとしたジャズダンスのレッスンをしていたわけではなかったので、ほとんど初心者状態で学生たちのいるスタジオに飛び込みました。

始めた当初は仕事をしていても続けられそうだと思っていましたが、徐々に内容がハードなものになりレッスンの先生に怒られるわ、上達しないわでレッスンに行くのが嫌に

なるあまり、病棟にいる方が気持ち的に落ち着くような時期もありました。

そんなダンスも始めて3年。仕事の都合で週に3回あるレッスン全てに参加することはできていませんが、可能な限りで頑張っています。時には夕方からレッスンに参加して夜勤へ行き、夜勤が終わると少し寝てから再びレッスンを受けに行くようなハードな日もありますが、逆に充実しているような気がして今の私には合っているみたいです。

病棟にはスタジオは違いますが他



にもダンス等を習っている先輩たちがいるので、休憩室などでそういった話しをしたり、ストレッチを試みたりと、ダンスをしているからその会話ができたりして毎日楽しいです。

半年後には大きな発表会も控えているので、さらに身体を鍛えて最高のパフォーマンスができるように努力していきます！！

かわむら しおり

乞！熱烈応援

近森会
保育室 **そると**

3月9日、お別れ遠足

広い視野とスピード性で

初心忘れず



近森会グループ リハビリテーション部
統括部長 小笠原 正

リハ部統括部長の辞令をいただきました。

今までは、近森リハ病院のリハ部長として業務を行ってきましたが、これからは近森会のリハ部全体を見渡しながら、より広い視野での関わりと、よりスピード感のある対応で、統括部長業務をこなしていきたいと思っています。今後とも宜しく願います。

おがさわら ただし



近森病院 リハビリテーション部
言語聴覚士主任 小林 早紀

近森会に入職して十数年、若い時は「患者さんのために！」と、良くも悪くもがむしゃらに突き進んできたように思います。

これからは、その意識は持ちつつも、主任という立場を理解し、より一層、患者さんやご家族の方をはじめ、地域に貢献できるリハビリテーションの提供に邁進していきたいと考えています。

こばやし さき



私の趣味

日本の文化を身にまとう



1年ほど前から着物の着付けに通い始めています。

日本の伝統文化の一つ「着物」は数ある民族衣装の中で最も美しいものとして世界に認められています。しかし、「着物」と聞くと、一見堅苦しい、面倒くさい、着るのが難しそう……。そんなイメージを持たれる方が多いと思います。事実、私も数年前までそうでした。しかし、妹



に、凛とした気持ちになり、その心地よさから、自分でも気軽に着られるようになりたいと思うようになりました。また、母親が茶道の師範であり、着物を着ている姿を子供の頃から見ていた為、知らず知らず身近なものに感じていたのかもしれない。

着物は洋服と違い今でも季節やTPOによって決まりが多く、とても

臨床栄養部
管理栄養士

福間 睦美



の結婚式の時に久しぶりに着物を着た時

奥深いものを感じます。母から譲ってもらった着物を着ることも多いですが、その中には祖母から受け継がれた物もあり、今ではもう作ることの出来ない貴重な品もあると聞いています。

このように代々引き継がれてきた着物をこれからも大切に着させていただき、日本人女性として「着物」を日本の美しい文化の一つとして残していけたらいいなと思っています。

ふくま むつみ



組織（人々）とともに歩む、 自分を見つめる

近森病院総合心療センター
副看護部長 武田 直子

1年間のいろいろな思い出が詰まった新人看護師振り返りの会を実施しました。

本年度は、4月入職時研修以後は各病院ごとの研修であり、久々に一堂に会することができました。

1年間の成果と課題についてグループワークをし、



▼2月振り返りの会の様子

▼各病院ごとに行った研修の一つ、BLS研修



先輩にたいする報連相（ほうれんそう）ができるようになってきたこと、できる技術が増えて、嬉しかったことなどの成果とともに、もっと家族にかかわりたい、患者さんの思

いが聞きたい、もっと勉強が必要、などの今後の課題もあげられました。

聞いていて、とても新鮮な気持ちになり、そして、組織の一員として、人のなかで成長していく姿を頼もしく感じました。これからも、自分を見つめる振り返りを大切にしていってほしいと思います。

ただけ なおこ

◀次年度新人看護師へのメッセージを寄せ書きしました

近森リハビリテーション病院

NASVA 指定の短期入院協力病院に

近森リハビリテーション病院は、2019年2月15日より国土交通省からNASVAの「短期入院協力病院」として指定を受けました。

独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)は、自動車事故により重度の後遺障害が残り治療と介護が必要な方を支援し、短期入院協力病院は、

ご家族の自宅介護を受けている方々への健康維持や、家族の負担軽減のため、短期入院（1回の入院が原則2日以上14日以内）希望の患者さんを受け入れる病院です。

短期入院ご希望の方は、近森リハビリテーション病院地域連携室までお問い合わせください。



▲NASVAについては
ホームページでどうぞ、
QRコードはこちら▶



ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

おめでとう

人の動き 敬称略

職員対象 第91回

チカモリ・シネマクラブ

たいへん おつかれさまでした



1978（昭和53）年4月より41年勤務された和田道子看護師長（写真右）と、2001（平成13）年12月より17年勤務された上戸理恵看護師長（写真左）が退職されます。それぞれ救急と地域連携、緩和ケアなどで活躍されました。

2019年2月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	16,472人
新入院患者数	890人
退院患者数	902人

近森病院（急性期）

平均在院日数	14.87日
地域医療支援病院紹介率	77.83%
地域医療支援病院逆紹介率	290.62%
救急車搬入件数	516件
うち入院件数	265件
手術件数	400件
うち手術室実施	264件
うち全身麻酔件数	160件

● 2019年2月 県外出張件数 ●

件数 54件 延べ人数 95名

編集室通信

寒いのが苦手な私にとって、春は待ち遠しいものであると同時に、春の陽気とともに飛んでくる花粉に悩まされる季節でもあります。日本人の25%が花粉症だといわれており、治療法だけでなく予防策など多くの情報があふれていますが、なにが一番いいのか試行の日々。インフルエンザ流行期から続くマスク生活はまだまだ続きそうです。

（マスク女子）

～旅立ち～

3年生担任 川村 久美子



3月8日、2期生の卒業式が行われました。

大きな拍手の中、緊張と喜びと自信に満ちた表情で卒業生が入場し厳かな雰囲気の中「卒業証書授与」が告げられました。学校長から卒業証書を受けとる卒業生は、入学当初感じた頼りなさは今はもうなく、たくましく成長していました。式は、特別表彰、在校生送辞、卒業生を代表して山崎桃花さんの答辞と進み、「栄光の架け橋」を斉唱。そして、壇上では3年間の思い出のライドショーが始まりました。

授業風景や学園祭、スポーツ大会など笑顔あふれる顔や真剣なまなざ

しなどの思い出が詰まった写真で埋め尽くされている姿を見るにつけ未来への期待と巣立ち行く寂しさで胸がいっぱいになりました。

私は2期生が当校に入学したと同時に教員の道を歩み始めました。私にとっても2期生と共に歩んだ3年間は特別なものであり、教員としてのやりがいや喜びを感じる事が出

来ました。

今後も2期生には自分たちが誇れる看護の道を歩んで行ってほしいと思います。そして、私自身もそれに負けないよう教員として成長していきたいと思っています。

かわむら くみこ



3年間を振り返って

卒業生 山崎 桃花



私は高校卒業後、社会人経験を経て看護学校に入学しました。学生生活は久しぶりのことであり、入学当初はやっていけるのかどうか不安でいっぱいでした。

専門知識や看護技術など、学ぶべきことが多く挫折しそうになる時もありましたが、先生方をはじめたくさんの方々の支えのおかげで無事に卒業することができました。

楽しいことばかりではなく、時にはつらいこともありましたが、卒業

した今、素晴らしい3年間だったと思えるのは共に過ごしてきた友人たちのおかげです。

これからもこの学校で学んだこと、初心を忘れず、向上心を持って努力し続けていきたいと思っています。

やまさき ももか



▲優秀賞受賞者の皆さん





四国初 近森病院ハートチーム TAVI—経カテーテル的大動脈弁留置術—専門施設へ

近森病院ハートセンター
副院長 兼 心臓血管外科主任部長 入江 博之



四国初・中四国で2番目

当院は四国で初めてのTAVI専門施設となることができました。また、中四国で見ますと第2番目となります。

昨年、TAVIに関する専門施設基準が作られました。専門施設とは単にTAVIを行って良い認定施設ではなく、症例数を積んだ認定施設の中から選ばれるものです。

2014年からハートチームで 200例を超える症例を

TAVIは、大動脈弁狭窄症をカテーテルで治療する手術です。従来の大動脈弁置換術を開胸で行う手術に比べると、生体への侵襲が少なく、体力があまりない高齢者に優しい治療となっています。どちらの治療が適切かを選択するときから、ハートチームで会議を行っています。

ハートチームは循環器内科、麻酔科、放射線科、また、看護師、臨床

検査技師、放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、それに心臓血管外科といった多職種が集まって構成するチームです。当院では以前から通常の手術にもこういったチームであたってきましたが、TAVIを行うにあたってはそれ以上にチームメンバーの連携が密に行われる必要がありました。

このチームで2014年12月からTAVIを開始し、既に総数200例を超えております。

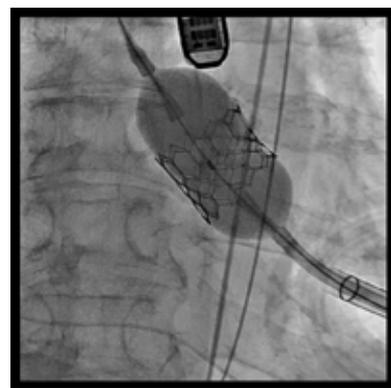
選択肢と経験の多い 専門施設として

高齢化社会を迎え、これからお元気でいながら大動脈弁狭窄症により、動いたときにしんどい、ふーつと意識がなくなるといった症状、また心不全に陥った患者さんをより侵襲の少ない方法で治療できる選択肢があるということは、大きな利点であると考えます。

専門施設に認定されて、益々その

責任を痛感しているところです。

いりえ ひろゆき



▲生体弁が大動脈弁の位置に到達し、バルーンを膨らませ、生体弁を広げて留置している場面

★ お問い合わせ ★

「TAVI」をはじめ、大動脈弁狭窄症の治療に関するご相談などは、かかりつけの先生と相談のうえ、近森病院循環器内科、または心臓血管外科までご連絡ください。月曜日に「TAVI 外来」を開設しています。